AgileWorks R3

全文検索ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. 全文検索について 4
1.1. 全文検索とは 4
1.2. 検索対象 4
2. 事前準備 5
2.1. 全文検索の設定 5
2.2. 書類インデックスの準備 6
3. 検索の実行 9
3.1. 検索実行画面 9
3.2. 全文検索の検索仕様 10
3.3. 検索結果の表示 11
4. 書類インデックスの仕様 12
4.1. インデックス作成箇所 12
4.2. インデックスのメンテナンス 12
4.3. 全文検索時サーバスペック参考値 13

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. 全文検索について

この章では、AgileWorks の全文検索について説明します。

1.1. 全文検索とは

全文検索とは、任意の言葉を書類の内容から検索することができる機能です。
添付ファイルの名称・内容を検索することもできます。
検索可能な書類は操作ユーザーが閲覧権限を持っている書類に限定されます。

全文検索機能は書類内容を単語に分解し、インデックス化したデータを用いているため、
従来の「件名」や「書類内容」を利用した検索よりも効率的な場合があります。

ただし、「検索キーワードが含まれる書類の検索」ではなく、「検索キーワードに一致した単語が含まれる書類の検索」が行われますので、指定した検索キーワードを含む書類を「全て」確認したいような場合は従来の件名やフィールドを指定した検索を行ってください。

例）「AgileWorks」を検索したいが「Ag」と入力しても検索結果に含まれない
　　「AgileWorks」と「Ag」は別の単語であるため。

1.2. 検索対象

検索対象となる項目は以下の通りです。

書類内容
　フィールドの値
　　・文字フィールド
　　・テキストエリア
　　・数値フィールド
　　・ラジオボタンのチェック値
　　・チェックボックスのチェック値
　　・コンボボックスのデータベース登録値
　　・リストボックスのデータベース登録値
　　・西暦フィールド
　　・月フィールド
　　・日フィールド
　　・曜日フィールド（0~6）
　　・日時フィールド（入力書式）
　コメント・メモの内容

※不可視フィールドは全文検索の対象外ですが、テキストフィールドなどのプロパティで不可視を true に設定している場合は全文検索の対象になります。

添付ファイル
　添付ファイルの拡張子が doc,docx,xls,xlsx,ppt,pptx,pdf,txt,csv,xml,html,zip のもの
　　ファイル名
　　ファイル内容
　　zip 内にあるファイルはファイル名のみ検索対象（日本語部分は検索不可）
　添付ファイルの拡張子が上記以外のもの
　　ファイル名

2. 事前準備

この章では、全文検索を使用する前に必要な設定や準備を説明します。

2.1.　全文検索の設定

【管理サイト】-【サイト管理】-【サイト共通設定】-【全文検索】-【書類インデックス】
全文検索の使用有無、対象フォームの設定、検索結果が多かった時の警告表示の選択をすることができます。

・全文検索
　書類検索の検索条件入力欄に全文検索の入力欄を表示するかどうか制御することができます。

・対象フォーム
　全文検索が使えるフォームを指定することができます。
　全てにチェックをするとリストボックスの内容をクリアし、すべてのフォームを対象とします。
　指定するにチェックすると対象フォームをリストボックスの中に追加して選択することができます。

・警告ダイアログ
　全文検索の結果が 500 件を超えた場合、検索条件の追加を促すダイアログを表示するかどうか制御することができます。

▼【管理サイト】-【サイト管理】-【サイト共通設定】-【全文検索】-【書類インデックス】



2.2. 書類インデックスの準備

全文検索を使用するためには全文検索用のインデックスが必要となります。
全文検索を使用するためのインデックスを準備する方法を説明します。

全文検索の書類インデックスはジョブの実行で作ることができます。
【管理サイト】-【サイト管理】-【サイト共通設定】-【ジョブ】-【システム】-【書類インデックス作成】

・現在ある書類が少ない環境でのインデックス作成の場合
　初回の書類インデックス作成ジョブは引数に「-r」をつけて実行してください。
　それ以降のジョブ実行の際は引数を何もつけずに実行してください。

・既に書類が多い環境でのインデックス作成の場合
　書類が大量にある場合、ジョブ実行に時間がかかりすぎるため、以下の手順で書類インデックス作成ジョブを実行してください。

1. R3 アップデート時点で最後の書類 ID を確認する。
   管理サイトの書類管理で検索し、最大の書類 ID を確認します。

2. 書類インデックスジョブを追加構築で実行する。
   書類インデックスジョブの実行時間が許容範囲内に収まる書類件数を指定します。
   書類インデックスに追加する先頭の書類 ID は以下の通り指定してください。
   ・初回は指定しない。
   ・2 回目以降は前回の書類インデックスジョブのログに出力された最後の書類 ID を指定する。

3. 1 で確認した書類 ID が 2 で処理されるまで 2 を繰り返す。

4. 追加構築の完了以降はジョブの引数に何も指定せずにスケジュール実行を行ってください。

・書類の添付ファイルが多い、または添付ファイルのサイズが大きい場合
　書類の添付ファイルが多い､または添付ファイルのサイズが大きい場合､メモリが保持する情報量が増えてしまため、「-clearCache i」を指定して実行してください。デフォルト値は「100」となります。
　※この引数が利用可能なバージョンは R3.2.0b 以降です。

・全文検索使用時の注意事項
　全文検索はインデックスができることで使用可能になります。
　全文検索の対象となる書類はインデックスが作成されている書類までとなります。
　インデックスに追加されなかった書類は全文検索の対象となりません。

　インデックス作成ジョブのスケジュール実行はデフォルトで無効になっています。
　スケジュール実行を有効にするとジョブの実行後、約 15 分で検索結果に利用できるようになります。

　インデックス作成ジョブがタイムアウトした際の処理
　　書類 1000 件毎にマスタインデックスを更新します。
　　ジョブがタイムアウトした次のジョブ実行時は、更新されたところから次のインデックス作成が始まります。

　R2 系で作成した書類については引数なしで書類インデックス作成ジョブを実行してもインデックスは作成されません。アップデート後、初めて書類インデックス作成ジョブを使用する際は「-r」もしくは「-a」をつけてジョブを実行してください。

　全文検索を利用するときには「既に書類がたくさんある環境でのインデックス作成の場合」を参考にインデックスを実行してください。

・ジョブの引数について
　書類インデックス作成ジョブの実行時に引数を指定することでジョブの動作や対象書類を変更することができます。
▼ジョブ実行時の引数とジョブの動作

引数	動作説明
-r	書類インデックスを新規構築します。 既存の書類インデックスがある場合は削除します。
-a N	書類インデックスを追加構築します。 既存の書類インデックスは削除せず、書類インデックスに書類を追加します。 N は書類インデックスに追加する書類数を指定します。 -docId または-lastModified による書類の条件指定が必須となります。
-docId N	書類 ID が指定値（N）より大きい書類のみ追加されます。
-lastModified YYYY-MM-DD	書類の最終更新日時が指定日（YYYY-MM-DD）以降である書類が追加されます。（指定日も含みます。）

-exclude N	指定された書類 ID（N）を書類インデックス作成対象から除外します。 （書類 ID はスペース区切りで複数指定可能です）
-clearCache i	指定された件数（i）毎にキャッシュをクリアします。 デフォルト値は 100、最小値は 1、最大値は 1000 となります。 ※R3.2.0b 以降のバージョンで利用が可能です。

▼ジョブ実行時の引数と対象書類

引数（モード）	引数（条件）	対象書類
引数なし	引数なし	書類インデックス作成ジョブの前回実行以降に作成または更新されたすべての書類が対象です。
	-docId	-docId で指定された書類 ID より大きい書類の中で、書類インデックス作成ジョブの前回実行以降に作成または更新されたすべての書類が対象です。（指定値は含みません。）
	-lastModified	書類の最終更新日時が-lastModified で指定された日付以降である書類の中で、インデックス作成ジョブの前回実行以降に作成または更新されたすべての書類が対象です。（指定日も含みます。）
	-exclude	-exclude で指定された書類 ID は書類インデックス作成対象から除外します。 -docId、-lastModified と併用できます。
-r	引数なし	すべての書類が対象です。
	-docId	-docId で指定された書類 ID より大きいすべての書類が対象です。（指定値は含みません。）
	-lastModified	書類の最終更新日時が-lastModified で指定された日付以降であるすべての書類が対象です。（指定日も含みます。）
	-exclude	-exclude で指定された書類 ID は書類インデックス作成対象から除外します。 -docId、-lastModified と併用できます。
-a N	引数なし	エラーとなるため対象書類はありません。
	-docId	-docId で指定された書類 ID より大きい書類を書類 ID 順に並べた時の先頭 N 件が対象です。（指定値は含みません）
	-lastModified	書類の最終更新日が-lastModified で指定された日付以降である書類を最終更新日時順に並べた時の先頭 N 件が対象です。（指定日も含みます。）
	-exclude	-exclude で指定された書類 ID は書類インデックス作成対象から除外します。 -docId、-lastModified と併用できます。

設定例
追加構築モードで、書類 ID で対象を指定し、一部の書類 ID は除外する。
ジョブ引数　-a 1000 -docId 2000 -exlude 2020 2030

▼【管理サイト】-【サイト管理】-【サイト共通設定】-【ジョブ】-【システム】
　最終更新日が 6 月 1 日以降の書類 300 件追加時の追加構築例



▼書類インデックス作成ジョブ実行ログ

```
■ジョブ設定で引数に-r を指定した場合

[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類インデックスの新規構築を行います
[2022/06/09 09:12:23] INFO – キャッシュクリア間隔：100
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 対象書類検索中…
[2022/06/09 09:12:28] INFO - 書類インデックス更新（1000 件）
[2022/06/09 09:12:28] INFO - 書類インデックス更新（2000 件）
[2022/06/09 09:12:46] INFO - 書類インデックスの更新処理が完了しました

■ジョブ設定で引数に-a N -docId M -clearCache 1000 を指定した場合
```

```
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類インデックスの追加構築を行います
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類条件：書類 ID が M 以降
[2022/06/09 09:12:23] INFO – キャッシュクリア間隔：1000
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 対象書類検索中…
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類 ID:XXXXX～XXXXX の書類を書類インデックスに反映
[2022/06/09 09:12:28] INFO - 書類インデックス更新 (1000 件)
[2022/06/09 09:12:28] INFO - 書類インデックス更新 (2000 件)
[2022/06/09 09:12:46] INFO - 書類インデックスの更新処理が完了しました

■ジョブ設定で引数に-a N -lastModified YYYY-MM-DD を指定した場合

[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類インデックスの追加構築を行います
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類条件：最終更新日時が YYYY-MM-DD 以降
[2022/06/09 09:12:23] INFO – キャッシュクリア間隔：100
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 対象書類検索中…
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類 ID:XXXXX～XXXXX の書類を書類インデックスに反映
[2022/06/09 09:12:28] INFO - 書類インデックス更新 (1000 件)
[2022/06/09 09:12:28] INFO - 書類インデックス更新 (2000 件)
[2022/06/09 09:12:46] INFO - 書類インデックスの更新処理が完了しました

■ジョブ設定で引数に何も指定していない場合

[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類インデックスの差分更新を行います
[2022/06/09 09:12:23] INFO – キャッシュクリア間隔：100
[2022/06/09 09:12:28] INFO - 書類インデックス更新 (1000 件)
[2022/06/09 09:12:46] INFO - 書類インデックスの更新処理が完了しました
```

・インデックスサイズ見積り

使用する書類サンプル数を指定して、書類インデックスのサイズ見積りをすることができます。

【管理サイト】-【サイト管理】-【サイト状況】-【全文検索】-【書類インデックス】-【書類インデックスサイズ見積り】

サンプル数が少ないと見積りの誤差が大きくなる可能性が高いですが、サンプル数を多くすると見積りによる処理負荷が高まります。

使用の際には注意してください。

▼書類インデックスサイズ見積りジョブ

```
■書類がある場合
[2022/06/09 14:56:23] INFO - 書類インデックスのサイズを見積ります
[2022/06/09 14:56:23] INFO - サイズ推定条件
[2022/06/09 14:56:23] INFO -    書類サンプル数：100
[2022/06/09 14:56:23] INFO -    見積り書類数：10000
[2022/06/09 14:56:23] INFO - 対象書類決定中…
[2022/06/09 14:56:23] INFO - 書類インデックスのサイズを見積り中…
[2022/06/09 14:56:23] INFO - SearchIndexStorage reloaded.
[2022/06/09 14:56:24] INFO - 書類インデックスのサイズ見積りが完了しました
[2022/06/09 14:56:24] INFO - マスタインデックスサイズ：4.5 MB
[2022/06/09 14:56:24] INFO - ローカルインデックスサイズ：8.5 MB

■書類がない場合
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類インデックスのサイズを見積ります
[2022/06/09 09:12:23] INFO - サイズ推定条件
[2022/06/09 09:12:23] INFO -    書類サンプル数：100
[2022/06/09 09:12:23] INFO -    見積り書類数：10000
[2022/06/09 09:12:23] INFO - 書類がないため、書類インデックスのサイズを見積もれませんでした
```

3. 検索の実行

この章では、検索の方法と結果の出力について説明します。

3.1. 検索実行画面

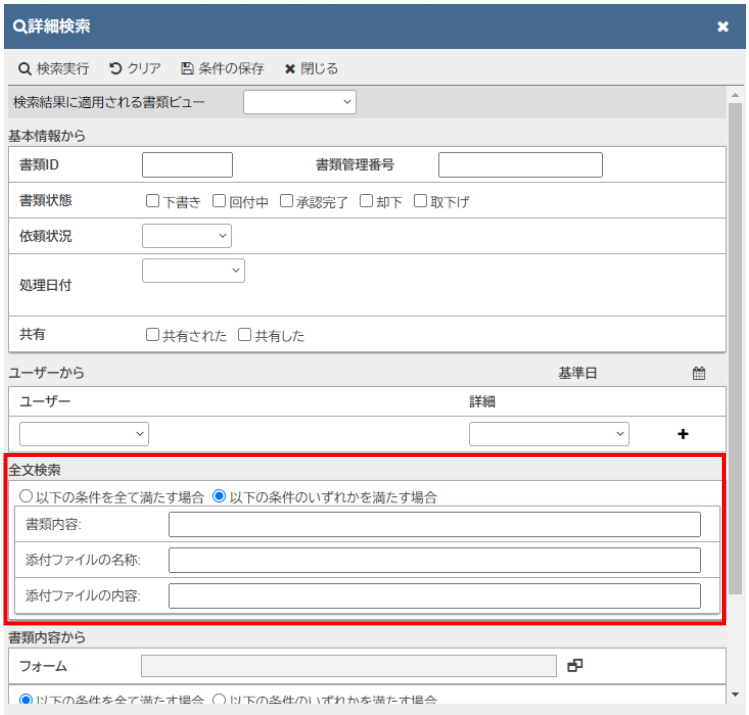
全文検索の使用方法について説明します。

全文検索は、簡易検索と詳細検索の２か所から使用することができます。

・簡易検索
　検索結果一覧の上部にある入力欄にキーワードを入れて検索できます。
　検索対象は、横のリストボックスから選択可能です。
　管理サイトで「全文検索を利用しない」を選択していた場合、こちらの入力欄は表示されません。
▼【ユーザーサイト】-【検索】



・詳細検索
　詳細検索画面の項目「全文検索」から検索対象に合わせて入力することで検索ができます。
　全文検索の条件がすべてを満たす場合かどれが一つでも満たす場合かは入力欄上部のラジオボタンで選択することができます。
　管理サイトで「全文検索を利用しない」を選択していた場合、こちらの入力欄は表示されません。
▼【ユーザーサイト】-【検索】-【詳細検索】



3.2. 全文検索の検索仕様

全文検索の検索の仕様について説明します。

全文検索では、言語処理に形態素解析を使用し当てはまる単語を探しています。
検索がうまくできないときは、部分一致ではなく、前方一致、後方一致、完全一致で検索をお試しください。

「テキストファイル」を検索したいとき
×「テキスト」、「ファイル」で検索
〇「テキスト*」、「*ファイル」、「テキストファイル」で検索

検索に使用する単語の分解については以下のサイトの「デモ」を使用して確認できます。
https://www.atilika.com/ja/kuromoji/

検索条件の指定
　複数の検索キーワードを空白区切りで並べた場合 AND 条件となります。
　また、検索対象はユーザーが条件を入力する入力欄で決定します。

▼検索で利用可能な記号

記号	意味
AND	AND 条件 AND の文字列を検索したいときにはダブルクォーテーションで囲みます。
OR	OR 条件 OR の文字列を検索したいときにはダブルクォーテーションで囲みます。
＋	必須
NOT	検索から語句を除外する NOT そのものを検索したい場合はダブルクォーテーションで囲みます。 例） 国語を含むが、数学を含むものは除外 　国語 NOT 数学 国語以外の全て 　* NOT 国語
-	検索から語句を除外する NOT と違い、キーワードとの間に空白を入れません。 例） 国語を含むが、数学を含むものは除外 　国語 -数学
¥	記号のエスケープ 以下の記号を検索キーワードの一部として使用するときに¥でエスケープします。 + - && || ! () {} [] ^ “ ~ * ? : \ /
[A TO B] {A TO B}	範囲指定 []は下限と上限を含み、{}は下限と上限を含みません。 [A TO B}、{A TO B]のように組み合わせて使うこともできます。 文字列の辞書順で範囲検索するため、数値としての直感的な検索結果にならない場合があります。 例） [2 TO 5]のとき 20 も検索結果に含まれる
?	ワイルドカード（1 文字分）
*	ワイルドカード（1 文字分以上）
/	正規表現検索 単語を / で囲んだ場合、正規表現による検索が可能です。 例） "moat" もしくは "boat" を含む単語を検索したい場合 /[mb]oat/
~	あいまい検索 英単語はスペルが似ている単語も検索結果に表れます。 ~の後に 0~1 の間で類似度を指定できます。（1 に近いほど似ている単語に絞られます。） 例） 検索が roam~の時以下の単語がマッチする roam,room,loan
~	単語間の距離（指定単語間にある単語数）が指定値以内であること 例） 検索　“単語 距離”~6 マッチ：単語の距離 アンマッチ：単語の間にある言葉の数が距離になる

()	グルーピング OR 条件と AND 条件を組み合わせる場合などに使用します。 例） 英語と国語のどちらかを含み、数学を含む (英語 OR 国語) AND 数学

▼あいまい検索

文字種	あいまい検索の仕様	違いを無視する文字の例
アルファベット	大文字小文字、全角半角の違いを無視して検索します。	Ａ、ａ、A、a
数字	全角半角の違い、丸付きの有無を無視して検索します。	１、1、①
カタカナ	全角半角の違いを無視して検索します。	ア、ｱ
組文字	組文字の状態と組文字ではない状態の違いを無視して検索します。	㌘、アパート

3.3. 検索結果の表示

書類を検索し、検索結果を画面に出力します。

・全文検索の結果が 0~500 件の場合
　検索結果一覧に表示します。

・全文検索の結果が 500 件を超える場合
　全文検索の結果から書類 ID 降順で先頭 500 件を表示します。
　また、全文検索以外の検索条件を入れていた場合、上記 500 件から絞り込みを行うため、検索結果表示が 500 件に満たない場合があります。
　管理サイトで「全文検索結果を一部だけ使用した場合の警告ダイアログ」を表示するにチェックを入れていた場合
　そのほかの検索条件によっては表示件数が 500 件より少ない場合でもアラートが表示されることがあります。

4. 書類インデックスの仕様

4.1. インデックス作成箇所

インデックスには、DB に格納される「マスタインデックス」と、マスタインデックスを元に各 AP サーバーへ配置される「ローカルインデックス」の 2 種類があります。

以下、各インデックスの作成箇所について説明します。

・マスタインデックス
▼DB サーバ別マスタインデックスの格納先

DB サーバ	マスタインデックス格納先
MySQL PostgreSQL	AW_HOME/storage/docindex
Oracle SQLServer	DB

・ローカルインデックス
ローカルインデックスは、agileworks_system.properties の Storage.docindex.location で指定したディレクトリに作成されます。
上記の指定がない場合、agileworks_system.properties の Upload.first.location で指定したディレクトリと同階層に docindex ディレクトリを作成して、そこにローカルインデックスを作成します。

ローカルインデックスがまだ存在しない場合はマスタインデックスの内容をすべて反映します。
ローカルインデックスが既に存在している場合は前回マスタインデックスを更新したときからマスタインデックスに更新があるか判定し、更新がある場合はマスタインデックスの内容をすべて反映します。

・MySQL および PostgreSQL を利用した複数 AP サーバ環境での利用の場合
agileworks_system.properties の Storage.docindex.location を必ず指定するようにしてください。
MySQL を利用した複数 AP サーバ環境の場合、AW_HOME/strage 配下をファイル共有するため、ファイル共有対象配下にローカルインデックスを格納すると複数 AP サーバが同じ場所にローカルインデックスを読み込み、更新することになり不整合が発生する恐れがあります。

4.2. インデックスのメンテナンス

マスタインデックスを統合する「書類インデックス圧縮ジョブ」
というシステムジョブがあります。

書類インデックス圧縮ジョブは同じマスタインデックスを統合します。
このジョブを実行することで、マスタインデックスの容量を削減することができます。

製品として定期実行を推奨しているものではありませんが、
例えば書類インデックス作成ジョブが実行された後に定期実行することで、
重複して作成されたインデックスを最適化し、インデックスの容量を削減することができます。

4.3. 全文検索時サーバスペック参考値

全文検索を使用するためのスペックの参考値です。

全文検索実行時のマシンスペック

項目	値
型番	AWS EC2 t3.xlarge
CPU	Intel(R) Xeon(R) Platinum 8259CL CPU @ 2.50GHz
メモリ	16GB
AP サーバ	4GB
ジョブマネージャー	2GB
ストレージ	SSD
OS	RHEL7
DB	MySQL8.0.15

書類インデックス作成時（追加構築 100 万件）

項目	値
所要時間	1 時間 25 分
書類インデックスサイズ（マスタ）	2.7GB
書類インデックスサイズ（ローカル）	2.3GB
メモリ使用量	2GB
CPU 使用率	概ね 30%
フル GC 発生回数	28 回
フル GC 時停止時間最大	734ms
フル GC 時停止時間平均	478ms

書類検索時

書類内容から「チーム」を検索（対象書類 722,016 件）

項目	値
所要時間	11.6882 秒
メモリ使用量	200MB 程度